

## 2. 各調査等について

### (1) 障害児支援を行う職員についての実態調査（アンケート調査）

#### ①目的

「質が良い支援」を行う人材の行動特性の共通項の把握・分析を行い、障害児支援の経験年数による支援の質とスキルについて明らかにするため、1年・3年・5年・7年・10年以上の障害児支援の経験を有する職員が、障害児支援の現場で、どのような職務を担い、実行しているのか、平均的な実態（傾向）を把握する。

#### ②概要

I. 調査対象：全国の児童発達支援センター、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所

II. 回答者：管理者又は児童発達管理責任者

III. 実施方法：

アンケート回答用の回答フォームを Google フォームで作成し、回答者に直接入力・登録していただく方法で実施した。具体的には、Webサイトの URL、QR コードを含む調査の実施方法が記載された依頼文及び調査票を、厚生労働省より児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所等の指定権者である都道府県・政令市・中核市に送付し、都道府県については管内の市区町村及び事業所への調査協力依頼の発送、政令市・中核市については管内の事業所への調査協力依頼の発送及び回答を依頼した。

IV. 実施時期：令和4年8月15日～9月16日

V. 回収結果：

対象件数	有効回答数	有効回答率
25102	4924	19.6%

VI. 調査項目：

本調査の内容は、「1. 職種共通」と「2. 職種別」に分かれている。

「1. 職種共通」は、児童発達支援ガイドラインの自己評価表をもとに、発達支援、家族支援、地域支援、事業所運営等に項目を大きく分けて、障害児支援の質の良いコンピテンシー（行動規範・姿勢・価値観）の観点から、それぞれ発達支援18項目、家族支援7項目、地域支援6項目、事業所運営13項目を設定し、それぞれの項目について、何年（何か月）以上の障害児支援の経験年数を有する職員が実施しているかチェックをいれてもらう方法とし

た。経験年数は、3 ヶ月以上、1 年以上、3 年以上、5 年以上、7 年以上、10 年以上、該当なしに分けた。「2. 職種別」は、職種ごとの質問を WG で検討して作成した。調査方法や対象は「1. 職種共通」と同様である詳細は別添の調査票（別添資料集）のとおり。

VII. 補足：本調査では、以下の補足をつけて調査を行った。

■経験とは、障害児支援の経験を指し、他事業所における障害児支援の経験を含むものとした。

■本調査における「適切に支援する」「適切な支援」等は、周囲からのサポートがなしで自ら主体的に実践することを指すこととした。

■本調査は、1 年・3 年・5 年・7 年・10 年以上の障害児支援の経験を有する職員が、障害児支援の現場で、どのような職務を担い、実行しているのか、平均的な実態（傾向）を把握するための調査であり、期待ではなく、貴事業所の実態（実際にやっていること）についてご回答をお願いした。

■各事業所の管理者においては、所属する職員の平均的な実態について、管理者の把握する範囲で回答をお願いした。

■職員個人によってばらつきがある場合は、平均を回答していただいた。

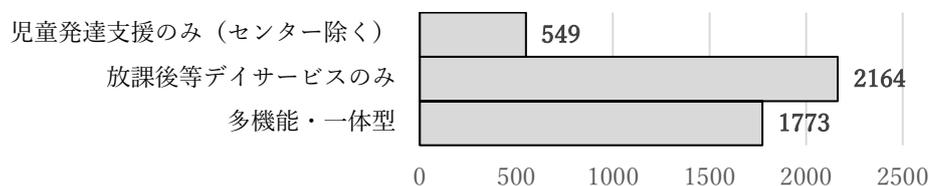
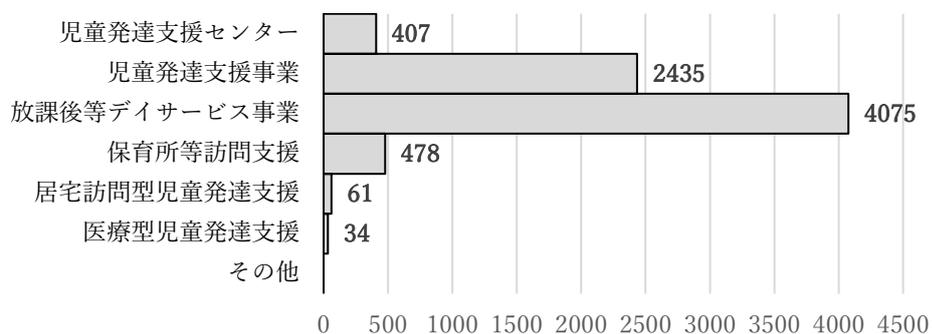
（例：「家族に対して相談および助言、必要な情報提供（福祉制度等を含む。）を行っている。」について、3 年目の職員が 3 人いて、うち 2 人は行っているが、1 人は行っていない場合、3 年目で過半数の職員が行っているため、「3 年以上」を「○（行っている）」としていただいた）

■年によってばらつきがある場合、平均を回答していただいた。（例：「家族に対して相談および助言、必要な情報提供（福祉制度等を含む。）を行っている。」という質問について、去年は、たまたま 3 年目の職員が行っていたが、その前はずっと、7 年目以上の職員が行っていた場合、「7 年目以上」に「○」をしていただいた）

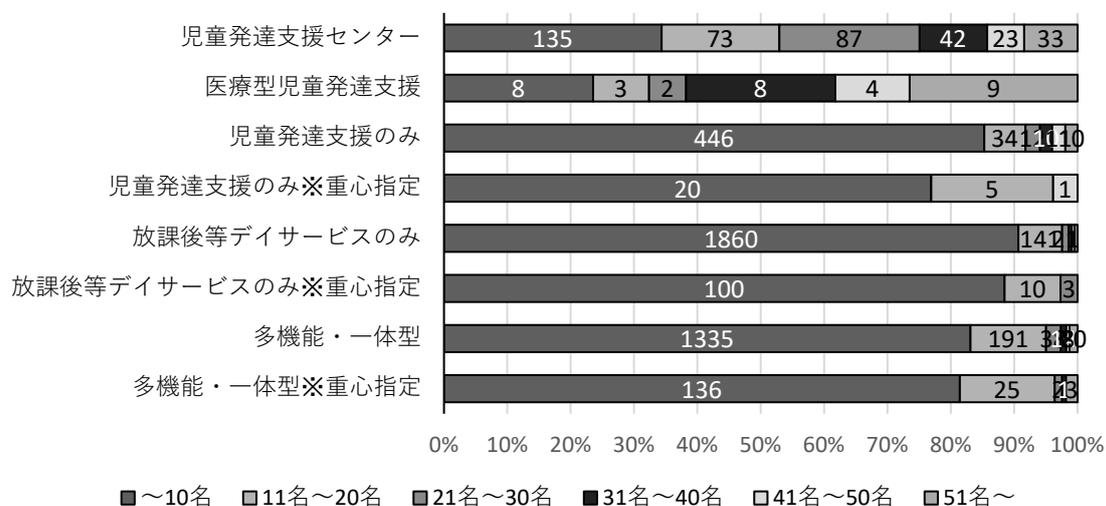
■過去 3 年程度の実態に基づく回答をお願いした。迷う場合には、管理者の把握する平均的な実態（大体その経験年数以上で行っている）を優先していただいた。

### ③回答者の基礎情報

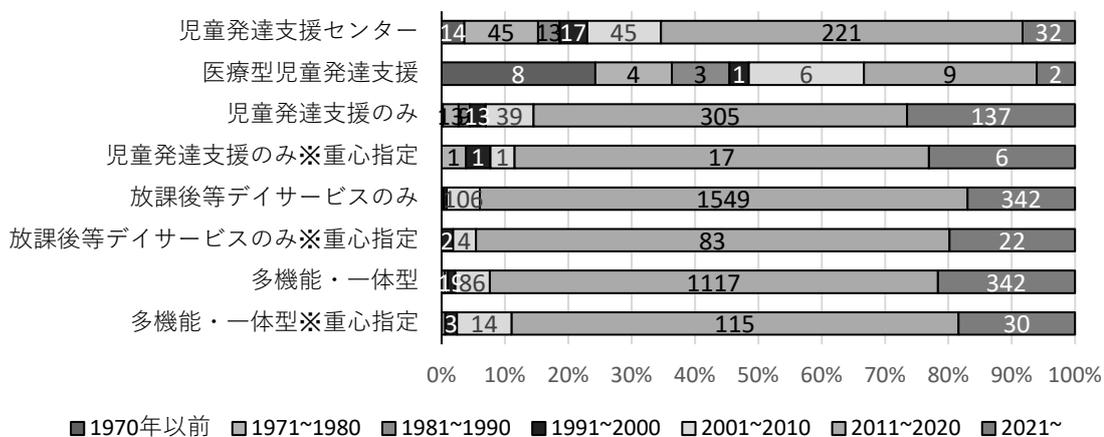
## I. 事業所の種類



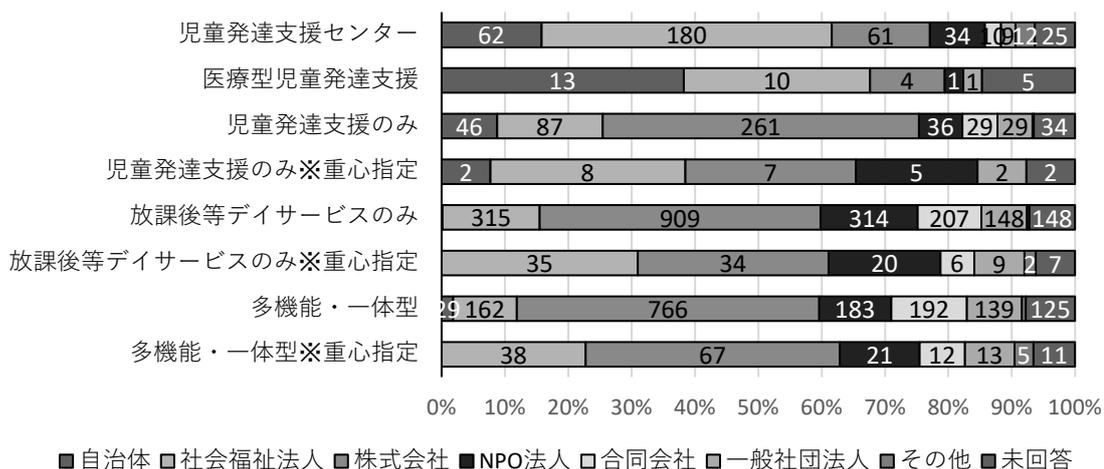
## II. 事業所の定員数



### III. 事業所の開設年



### IV. 運営主体



#### ④結果（職種共通調査）

調査項目の詳細と、項目ごとの回答結果は下記の通りである。

##### 【発達支援について 18 項目】

- ① 個別支援作成の作成・提案・協力
- ② 食育・食事支援
- ③ 健康状態のチェック
- ④ ADL 生活スキルへの支援
- ⑤ 姿勢・筋力保持・運動等への適切な支援
- ⑥ 認知・コミュニケーションの困難さへの支援
- ⑦ 意思の伝達・言語への支援
- ⑧ 関係性の形成への支援
- ⑨ 遊びの発達の理解興味関心への工夫
- ⑩ 集団活動への支援
- ⑪ 行動の問題への理解と支援
- ⑫ 子どもの困り感に対して人や環境調整、特性に配慮する支援
- ⑬ 気持ちや感情のコントロールへの支援
- ⑭ 標準的な発達への理解
- ⑮ 移行期の理解と支援
- ⑯ 心理的課題・メンタルヘルスの理解と支援
- ⑰ 服薬・てんかん等、健康に関する状況の把握
- ⑱ 障害に対する理解と支援：知的障害・肢体不自由・医療的ケア・聴覚障害・視覚障害・マルトリートメント

##### 【家族支援について 7 項目】

- ① クラスだより連絡帳などの情報発信
- ② 発達のみ方等の情報発信
- ③ 子育ての情動的協
- ④ 保護者への心理的サポート
- ⑤ 移行期の選択への支援
- ⑥ 家族プログラム
- ⑦ 虐待のリスクアセスメント

##### 【地域支援について 6 項目】

- ① 担当児が在籍している機関との連携
- ② 関係機関との連携
- ③ 移行先との調整

- ④ 保育所等訪問支援地域療育等支援事業の担当
- ⑤ 地域の機関へのスーパーバイズ
- ⑥ 自立支援協議会等への参加

【事業運営について 13 項目】

- ① 安心完全な環境改善
- ② ガイドラインに基づいた改善の提案
- ③ タイムテーブル・活動プログラムの立案
- ④ PDCA を意識しての発達支援
- ⑤ モニタリングし個別支援計画の作成協力
- ⑥ 守秘義務の取り扱い
- ⑦ 事故防止・安全管理
- ⑧ 多職種によるチームアプローチ
- ⑨ 職場内での委員会への参加
- ⑩ 職場のルール・職場倫理の理解
- ⑪ 組織の役割とチームワークの意識
- ⑫ 組織としての法令遵守の理解と方法の作成
- ⑬ 組織としてのリスクマネジメントの理解と方法の作成

発達支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者に提案・協力し、計画に沿った支援を適切に行っている	306 (6%)	897 (19%)	1388 (29%)	1092 (23%)	585 (12%)	580 (12%)	4848
②食育のねらいを理解し、健康状態、発育・発達段階に応じた食事内容、食物形態、偏食指導などを工夫して適切に支援している	173 (6%)	582 (19%)	965 (31%)	701 (23%)	310 (10%)	340 (11%)	3071
③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている	582 (12%)	1076 (23%)	1318 (28%)	961 (20%)	396 (8%)	418 (9%)	4751
④睡眠、食事、排泄、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している	443 (10%)	1053 (23%)	1365 (30%)	957 (21%)	379 (8%)	395 (9%)	4592
⑤日常生活に必要な姿勢保持や上下肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している	272 (7%)	764 (20%)	1151 (31%)	837 (22%)	343 (9%)	398 (11%)	3765
⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている	356 (7%)	959 (20%)	1494 (31%)	1076 (23%)	436 (9%)	461 (10%)	4782
⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達ができるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている	398 (9%)	1001 (22%)	1437 (31%)	982 (21%)	414 (9%)	406 (9%)	4638
⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している	431 (9%)	1092 (22%)	1479 (30%)	1042 (21%)	410 (8%)	409 (8%)	4863
⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している	372 (8%)	1074 (22%)	1521 (31%)	1063 (22%)	423 (9%)	414 (9%)	4867
⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援をしている	379 (8%)	1100 (23%)	1497 (31%)	1041 (22%)	401 (8%)	405 (8%)	4823
⑪子どもの行動の課題（多動・他害・自傷等を含む）の原因を理解して、適切な方法で支援をしている	273 (6%)	898 (19%)	1531 (32%)	1175 (24%)	462 (10%)	487 (10%)	4826
⑫子どもの困り感に対して、環境や人との関係性との相互作用、発達段階及び発達特性を捉えて適切に支援を行っている	265 (5%)	873 (18%)	1520 (31%)	1201 (25%)	487 (10%)	489 (10%)	4835
⑬子どもの行動や特徴を理解して、気持ちや情動のコントロールができるように適切な支援している	290 (6%)	935 (19%)	1550 (32%)	1176 (24%)	476 (10%)	437 (9%)	4864
⑭子ども理解のための各年齢やライフステージでの標準的な発達を理解している	239 (5%)	847 (18%)	1500 (31%)	1192 (25%)	498 (10%)	522 (11%)	4798
⑮移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている	174 (4%)	682 (15%)	1398 (30%)	1246 (26%)	592 (13%)	610 (13%)	4702
⑯子どもの心理的課題・メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑発等）を理解し、適切に支援している	199 (4%)	665 (15%)	1397 (31%)	1139 (25%)	528 (12%)	551 (12%)	4479
⑰服薬やアレルギー、てんかん発作等のこどもの健康等に関する状況を把握している	342 (8%)	875 (19%)	1311 (29%)	1034 (23%)	462 (10%)	495 (11%)	4519
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）]	350 (7%)	1033 (22%)	1521 (32%)	1063 (22%)	386 (8%)	397 (8%)	4750
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [知的障害]	388 (8%)	1080 (23%)	1497 (32%)	1009 (21%)	380 (8%)	396 (8%)	4750
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [肢体不自由]	182 (7%)	512 (21%)	731 (29%)	580 (23%)	225 (9%)	265 (11%)	2495
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [重症心身障害]	100 (6%)	246 (16%)	457 (29%)	402 (26%)	149 (10%)	211 (13%)	1565
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [医療的ケア]	92 (7%)	193 (16%)	348 (28%)	312 (25%)	114 (9%)	174 (14%)	1233
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [聴覚障害]	150 (9%)	349 (21%)	466 (28%)	378 (23%)	135 (8%)	174 (11%)	1652
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [視覚障害]	128 (10%)	265 (20%)	367 (28%)	325 (25%)	109 (8%)	126 (10%)	1320
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [マルトリートメント（虐待等）]	164 (6%)	447 (16%)	805 (29%)	669 (24%)	313 (11%)	353 (13%)	2751

家族支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している	491 (10%)	1115 (24%)	1296 (28%)	969 (21%)	410 (9%)	416 (9%)	4697
②事業所だより等の中で事務連絡にとどまらず子どもの発達の見方や発達等について適切に情報を発信している	231 (5%)	799 (18%)	1271 (28%)	1086 (24%)	508 (11%)	566 (13%)	4461
③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている	133 (3%)	564 (12%)	1232 (27%)	1274 (28%)	671 (14%)	754 (16%)	4628
④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている	163 (3%)	629 (13%)	1298 (27%)	1300 (27%)	671 (14%)	753 (16%)	4814
⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている	105 (2%)	460 (10%)	1146 (25%)	1289 (29%)	708 (16%)	794 (18%)	4502
⑥家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている	76 (2%)	350 (11%)	824 (25%)	889 (27%)	509 (16%)	596 (18%)	3244
⑦虐待のリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている	148 (4%)	511 (12%)	1094 (26%)	1124 (27%)	603 (14%)	708 (17%)	4188

地域支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①担当しているお子さんが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている	169 (4%)	617 (13%)	1254 (27%)	1253 (27%)	649 (14%)	733 (16%)	4675
②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている	110 (2%)	459 (10%)	1113 (24%)	1307 (28%)	764 (16%)	901 (19%)	4654
③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている	109 (2%)	445 (10%)	1140 (26%)	1236 (28%)	704 (16%)	777 (18%)	4411
④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている	58 (2%)	232 (10%)	535 (23%)	634 (27%)	359 (15%)	523 (22%)	2341
⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている	53 (2%)	207 (8%)	502 (20%)	677 (28%)	395 (16%)	619 (25%)	2453
⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している	86 (3%)	312 (9%)	708 (21%)	889 (27%)	540 (16%)	800 (24%)	3335

事業運営	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①障害特性を踏まえた安心安全な環境改善を適切に行っている	266	(5%)	831	(17%)	1413	(29%)	1179	(24%)	560	(12%)	609	(13%)	4858
②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出や、改善の提案を適切に行っている	160	(3%)	609	(13%)	1217	(25%)	1286	(27%)	697	(15%)	836	(17%)	4805
③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている	330	(7%)	1066	(22%)	1415	(29%)	1112	(23%)	461	(10%)	465	(10%)	4849
④PDCAを意識して発達を支援し、かつ記録に反映している	290	(6%)	899	(19%)	1391	(29%)	1178	(25%)	515	(11%)	486	(10%)	4759
⑤モニタリングをし、個別支援計画の変更や終結を児童発達支援管理責任者に提案・協力している	263	(5%)	878	(18%)	1399	(29%)	1204	(25%)	538	(11%)	537	(11%)	4819
⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている	717	(15%)	928	(19%)	1168	(24%)	1037	(21%)	503	(10%)	529	(11%)	4882
⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解して、自ら実践している	597	(12%)	1012	(21%)	1313	(27%)	1032	(21%)	456	(9%)	469	(10%)	4879
⑧支援の現場において多職種連携によるチームアプローチで、自らの役割を意識して参加ができる	342	(7%)	932	(20%)	1385	(30%)	1040	(23%)	440	(10%)	422	(9%)	4561
⑨所属組織内の委員会等（虐待防止委員会、コンプライアンス委員会、倫理委員会等）に参加している	371	(8%)	706	(16%)	1128	(26%)	1018	(23%)	539	(12%)	648	(15%)	4410
⑩職場のルール及び職場倫理を理解して適切な支援を行っている	648	(13%)	1038	(21%)	1229	(25%)	1005	(21%)	470	(10%)	482	(10%)	4872
⑪組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあたっている	608	(12%)	1079	(22%)	1288	(26%)	1004	(21%)	453	(9%)	445	(9%)	4877
⑫組織としての法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	263	(6%)	630	(13%)	1116	(24%)	1207	(26%)	647	(14%)	831	(18%)	4694
⑬組織としてのリスクマネジメント（災害・感染症・事故等発生時対応、対策等）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	219	(5%)	616	(13%)	1144	(24%)	1245	(26%)	665	(14%)	859	(18%)	4748

## ⑤分析・考察（職種共通調査）

### I. 経験年数別の状況

#### ≪障害児支援の経験が1年未満の職員が担っている支援項目≫

全体的に障害児支援の経験1年未満の職員でも適切に支援をしている項目は少ないが、次の項目は経験年数1年未満の職員も適切に支援していると回答した事業所が10%以上であり、障害児支援の経験1年未満の職員が行っている割合が比較的高い。

#### 【発達支援】

- ③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている（12%）
- ④睡眠、食事、排せつ、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している（10%）
- ⑩視覚障害について理解し、適切な配慮、支援をしている（10%）

#### 【家族支援】

- ①クラスだより連絡帳などの情報発信（10%）

#### 【地域支援】

無し

#### 【事業所運営】

- ⑥個人情報など秘密保持の取り扱いを適切に行っている（15%）
- ⑦事故防止及び健康、安全管理の重要性を理解して自ら実践する（12%）
- ⑩職場のルール及び職場倫理を理解して適切な支援を行っている（13%）
- ⑪組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあたっている（12%）

発達支援の項目では、健康チェックや基本のADL獲得のための支援、家族支援の項目では、クラスだより・連絡帳などの情報発信、事業所運営では、個人情報の取扱い、子どもの事故防止、安全管理、職場のルールや職場倫理の理解、組織における役割とチームワークが該当する。これらの項目は、基礎的に学ぶべき項目と考えられる。

#### ≪1年以上3年未満の職員が担っている支援項目≫

次の項目は、経験年数1年以上3年未満の職員が担っていると回答した事業所が20%以上の項目であり、障害児支援の経験1年以上3年未満の職員が行っている割合が比較的高い。

#### 【発達支援】

- ③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必

要な対応を行っている (23%)

④睡眠、食事、排せつ、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるようここに応じて適切に支援している (23%)

⑤日常生活に必要な姿勢保持や上下肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している (20%)

⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている (20%)

⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達ができるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている (22%)

⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している (22%)

⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している (22%)

⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援をしている (23%)

(障害特性への理解)

⑩発達障害 (自閉スペクトラム症・ADHD)への理解、配慮、支援 (22%)

⑩知的障害への理解、配慮、支援をしている (23%)

⑩肢体不自由への理解、配慮、支援をしている (21%)

⑩聴覚障害について理解し、適切な配慮と支援をしている (21%)

⑩視覚障害について理解し、適切な配慮、支援をしている (20%)

#### 【家族支援】

①クラスだより連絡帳などの情報発信 (24%)

#### 【地域支援】

無し

#### 【事業所運営】

③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている (22%)

⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解し自ら実践している (21%)

⑧支援現場において多職種連携によるチームアプローチで自らの役割を意識して参加している (20%)

⑩職場のルール及び職場倫理を理解し適切な支援を行っている (21%)

⑪組織における役割とチームワークを理解して適切な業務にあたっている (22%)

### 《1年未満の職員と1年以上3年未満の職員の支援内容の比較》

1年以上3年未満になると、1年未満に比べて、発達支援における仕事内容が増えてきている。姿勢保持、コミュニケーション、意思の伝達、表出の支援、関係性、遊びの発達、こどもの発達段階、集団活動への参加の工夫、また発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）、知的障害、肢体不自由、聴覚障害、視覚障害などを理解しと配慮と支援をするようになってきていることがうかがえる。

家族支援や地域支援に関しては、発達支援に比べると、まだ取組みが少ないといえる。

他方、家族支援の「②事業所だより等の中で事務連絡にとどまらず子どもの発達のみ方や発達支援について適切に情報提供の発信をしている」に関しては、18%であり、1年未満の5%に比べると上昇しており、発達支援の「⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している」（22%）と連動して、子どもへの理解が深まりその結果、情報提供の質が上がっていることがうかがえる。

事業所運営に関してはすべての項目で、1年未満の経験者に比べると増加している。特にタイムテーブルや活動プログラムの立案は、7%から22%と増えている。

また、「①障害特性を踏まえた安心安全な環境を適切に行っている」は、17%になっており、多くはないが、1年未満の5%と比べると、上昇率は高くなっており、子どもの安全への意識が確実に高くなってきている。

### 《3年目以上5年目未満の職員が担っている支援項目》

#### 【発達支援】

発達支援は、全体的に、3年目以上5年目未満の職員に割合が高い傾向があり、現状では、3年目以上から5年未満の職員の30%前後の職員がこの調査の発達支援を担っていることがうかがえる。

#### 【家族支援】

発達支援よりも数値は下がるが、25%から28%の職員が家族支援を担っている。家族支援の中で②移行期への支援26%、⑦家族支援プログラムの提供25%⑧虐待のアセスメントと対応26%と低くなっているため、支援の困難さがうかがえる。

#### 【地域支援】

発達支援に比べると、3年目から5年未満の職員では低い傾向がみられる。

①担当の子どもの在籍園や学校との連携は27%と高いが、④保育所等訪問支援・地域療育等支援の役割を担っている（23%）、⑤地域の機関へのSV（20%）、⑥協議会等への参加（21%）と低くなっている。

#### 【事業所運営】

ほとんどの項目において3年目以上から5年未満の職員が25%から30%前後となっている。事業所運営においても中心的な役割を担っていることがうかがえる。⑥個人情報の取り扱いに関しては24%と低いが、1年未満からポイントが高いため全年代で行われていると思われる。やはり⑫⑬組織としてコンプライアンス・リスクマネージメントの重要性を理解して必要な方針、具体的な方法の作成では、24%とポイントが少し低くなっている。

日本における障害児通所支援において発達支援に関しては、どの項目も3年目以上約3割と高い傾向が見られた。2012年以降障害児通所支援の数の拡大傾向にも関係があると思われる。

経験年数が増えると、発達支援から家族支援、地域支援を担う傾向にある。

調査からは、障害児支援の現場における支援・仕事内容は、発達支援、家族支援、地域支援、運営について、経験年数を重ねることで、増えていっていることが読み取れた。

#### 《経験年数3年以上の職員と3年未満の職員の支援内容の比較》

全体的に、3年以上に割合が高い傾向から、3年以上と3年未満の経験でその割合に差が見られるものを着目すると、3年以上になって割合が大きくなっている項目は、以下のものである。

##### 【発達支援】

⑮ 移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている

⑯ 子どもの心理的課題・メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑発等）を理解し、適切に支援している

##### 【家族支援】

③ 家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている

④ 保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている

⑤ 移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている

⑥ 家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている

⑦ 虐待のリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている

##### 【地域支援】

① 担当しているお子さんが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている

② 関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている

- ③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている
  - ④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている
  - ⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている
  - ⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している
- 中でも、地域支援の中で、⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている、⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加しているなどの2項目は、10年以上の割合も多い。

一方、3年以上と3年未満の経験でその割合にあまり差が見られない項目は、以下のものである。

**【発達支援】**

- ③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている

**【家族支援】**

- ①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している

**【事業所運営】**

- ⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている
- ⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解して、自ら実践している
- ⑩職場のルール及び職場倫理を理解して適切な支援を行っている
- ⑪組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあたっている

**≪ 5年目以上7年目未満の職員が担っている支援項目 ≫**

次の項目は、経験年数5年以上7年未満が3年以上5年未満より同等もしくは高い割合を示した項目である。

**【家族支援】**

- ③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている（27→28%）
- ④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理サポートを行っている（27→27%）
- ⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている（25→29%）
- ⑥家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている（25→27%）
- ⑦虐待のリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている（26%→27%）

**【地域支援】**

全てにおいて5年目以上が高くなっている。中でも、地域支援の⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしているという項目が5年以上で多い。（28%）

#### 【事業所運営】

- ②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出や、改善の提案を適切に行っている（25→27%）
- ⑫ 組織としての法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している（24→26%）
- ⑬組織としてのリスクマネジメント（災害・感染症・事故等発生時対応、対策等）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している（24→26%）

#### ≪経験年数7年以上10年未満の職員と5年以上7年未満の職員の比較≫

経験年数7年以上10年未満の職員と5年以上7年未満の職員を比較した場合、7年以上が5年以上より高い割合の支援項目は1項目もみられなかった。5年以上が7年以上よりすべての項目で多く、平均2倍前後にある。中でも特徴的なのは、以次の2つであり、5年以上と7年以上を比べると、5年以上が3倍近く多い。

#### 【発達支援】

- ⑱下記について理解し、適切な配慮と支援をしている[聴覚障害]
- ⑲下記について理解し、適切な配慮と支援をしている[視覚障害]

聴覚障害や視覚障害に対する支援は、5年以上に多いが、7年以上でぐんと下がることから、5年以上→7年以上の変化が乏しく、聴覚障害や視覚障害への支援は、相対的には、5年以上の経験が目安になると示唆される。

#### ≪7年以上10年未満の職員が担っている支援項目≫

次の項目は、経験年数7年目以上の職員が担っていることが比較的多い項目である。

#### 【地域支援】

どの項目においても14～16%となっている。

- ②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている（16%）
- ③移行先への具体的な調整や情報提供の共有を適切に行っている（16%）
- ⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている（16%）
- ⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している（16%）

これらの業務は、5年以上と同様に7年以上でも比較的担うことが多い内容と考えられる。

#### 《7年以上に比較的多い項目》

7年以上に比較的多い項目が以下の4項目である。

##### 【地域支援】

- ②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている
- ④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている
- ⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている
- ⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している

5年以上の経験年数とほぼ共通する内容であるが、経験年数5～7年で、外部との機関連携に携わることが増えていくことが推測される。

#### 《経験年数10年以上の職員が担っている支援項目》

次の項目は、経験年数10年以上が7年以上10年未満より高い割合を示した項目である。

##### 【発達支援】

- ⑱下記について理解し、適切な配慮と支援をしている [重症心身障害]
- ⑲下記について理解し、適切な配慮と支援をしている [医療的ケア]

##### 【地域支援】

全項目7年目より高くなっているが、その中でも20%を超える項目が以下の項目である。

- ④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている（22%）
- ⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている（25%）
- ⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している（24%）

⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしているという項目は、5年目以上の次に10年以上の方に多い傾向が強い。地域のスーパーバイズや地域支援は今後さらに重要になってくるため、今後の人材育成を考える上でも重要な点である。

## II. 経験年数（職種共通）の考察

実態調査としては、発達・家族・地域支援について、経験年数を重ねるごとに家族支援・地域支援にずれていくことが読み取れる。3年目までは子どもに直接関わってこどもの理解をしていき、それ以降キャリアを重ねていくと関係者との連携をとっていく力が求められると思われる。

発達支援に関しては、どの項目も3年目以上で3割と高い傾向が見られた。

項目で見ると、1年未満から比較的多く実施していたのは、「発達支援」の項目では、健康チェックや基本のADL獲得のための支援、「家族支援」の項目では、クラスだより・連絡帳などの情報発信、「事業運営」では、個人情報の取扱い、子どもの事故防止、安全管理、職場のルールや職場倫理の理解、組織における役割とチームワークが該当する。これらの項目は、基礎的に学ぶべき項目と考えられる。

一方、発達支援の⑮移行期支援、⑯メンタルヘルス、⑰障害特性の理解と適切な配慮・支援、家族支援の③情報提供、④保護者への心理的サポート、⑤移行先選択、⑥家族支援プログラム、⑦虐待アセスメント、地域支援の全項目①～⑥関係機関との連携などについては、特に1年と3年での違いがでており、3年以上の経験年数で対応していく内容とも考えられる。家族や地域の関係機関と連携する力が3年以上の経験者に役割として求められていると推察される。

特に地域支援の中で、10年以上の割合が多く見られる項目が、地域の機関へのスーパーバイズや、自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加しているなどであり、他機関と協働的な役割を担う業務は経験年数がかかることが示唆される。

### III. 運営主体別・事業者別の傾向について

運営主体を自治体、社会福祉法人、株式会社と分けた場合の集計では、以下のような状況であった。

#### ≪自治体≫

【発達支援】3年目以上が高くなっている。

【家族支援】10年目以上が27%から35%と高くなっている

【地域支援】10年目以上が、地域支援の項目④保育所等訪問支援（42%）、⑤地域の機関へ訪問によるSV（47%）、⑥各協議会への参加（45%）と40%以上と非常に高くなっている。これに関しては、自治体における雇用形態が影響していると思われる。

#### ≪社会福祉法人≫

【発達支援】3年目以上が高くなっている。

【家族支援】5年目から10年目以上が高くなっている。

【地域支援】5年目から10年目以上が34%から41%となっている。

#### ≪株式会社≫

【発達支援】3年目以上が30%前後と多いが、1年目以上5年目以上も20%を超える項目も多い。7年目以上はほとんどが10%未満である。

【家族支援】3年目、5年目が30%前後になっている

【地域支援】3年目、5年目が30%前後になっている

全体的に10年以上の割合が低くなっている。

運営主体別に調査を見ていくと、職員の経験年数については、2003年の支援費制度からの民間参入が始まり、それ以前からある、特に自治体や社会福祉法人の職員の経験年数と2012年から事業所数が大幅な増加を続けている民間の株式会社の状況にも関係していると思われる。

事業所の数は、平成24年度から令和2年度の伸びは児童発達支援が3.5倍、放課後等デイサービスは7.8倍となっている。（出典：国保連データ、参考：第6回障害児通所支援に関する検討会（令和4年12月14日）資料）

経験年数の違いを運営別で見ると、自治体に経験年数が高い人が多い傾向にある。また、自治体や社会福祉法人は経験年数が高い傾向にある一方で、株式会社は経験年数の低い割合が多い。

経験年数ごとに担っている支援内容については、自治体は3年以上でどの年数もなだらかだが、地域支援や事業所運営で10年以上が多い。センターも同様の傾向に見える。社会福祉法人は、3～5年に多いが、地域支援で10年以上に高い傾向が見える。

放デイも3～5年に多い傾向である。一方、株式会社は3年前後に集約する傾向にあり、全体的に株式会社は、社福・自治体・NPOよりも若手が業務を担っている傾向にある。

職業別割合	リスト選択① 事業種別リスト									リスト選択① 事業種別リスト									リスト選択① 事業種別リスト								
	リスト選択② 児童発達支援センター									リスト選択② 児童発達支援のみ※非									リスト選択② 放課後等デイサービス								
	合計	保育士	児童指導員	OT	PT	ST	心理職	看護職		合計	保育士	児童指導員	OT	PT	ST	心理職	看護職		合計	保育士	児童指導員	OT	PT	ST	心理職	看護職	
経験年数3か月未満	94	11%	8%	5%	1%	1%	2%	8%	152	15%	11%	6%	10%	6%	4%	7%	395	9%	10%	4%	12%	11%	8%	14%			
経験年数 3か月以上1年未満	341	45%	25%	16%	15%	10%	9%	17%	387	37%	30%	13%	28%	17%	16%	22%	1034	23%	25%	37%	21%	18%	23%	16%			
経験年数1年以上3年未満	532	62%	45%	28%	20%	22%	14%	23%	551	52%	46%	24%	30%	21%	21%	26%	1888	41%	51%	29%	41%	31%	28%	32%			
経験年数3年以上5年未満	515	61%	48%	16%	18%	16%	19%	24%	461	45%	39%	20%	10%	17%	22%	24%	1799	36%	57%	15%	13%	10%	19%	20%			
経験年数5年以上7年未満	419	51%	34%	10%	14%	24%	13%	21%	340	33%	27%	16%	8%	11%	20%	20%	1343	25%	44%	7%	9%	10%	16%	19%			
経験年数7年以上10年未満	367	39%	31%	15%	13%	18%	21%	17%	204	21%	15%	4%	3%	8%	19%	11%	747	15%	24%	4%	2%	7%	8%	8%			
経験年数10年以上	641	56%	33%	42%	51%	56%	61%	34%	355	32%	15%	32%	30%	36%	35%	28%	741	19%	18%	11%	9%	22%	12%	15%			
合計	2909								2450									7947									
回答件数	394	375	350	144	91	147	127	144	523	504	420	82	71	109	96	46	2051	1606	1957	150	115	83	217	156			
	※経験年数〇以上〇未満が1名以上の事業所数でカウント									※経験年数〇以上〇未満が1名以上の事業所数でカウント									※経験年数〇以上〇未満が1名以上の事業所数でカウント								

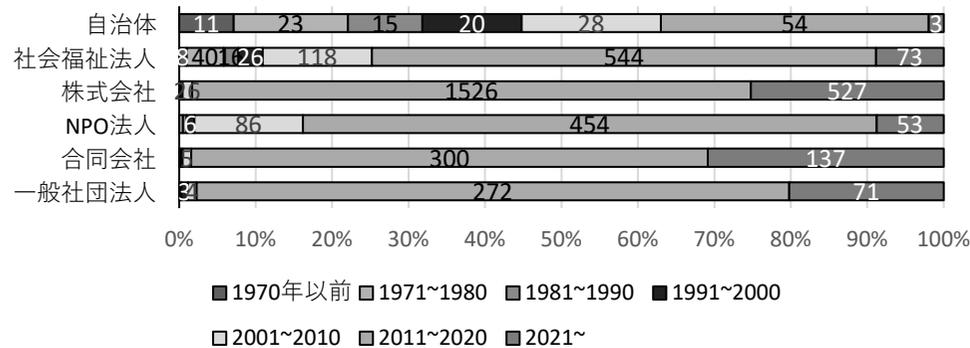
職業別割合	リスト選択① 事業種別リスト									リスト選択① 事業種別リスト								
	リスト選択② 医療型・重心									リスト選択② 多機能・一体型※非重								
	合計	保育士	児童指導員	OT	PT	ST	心理職	看護職		合計	保育士	児童指導員	OT	PT	ST	心理職	看護職	
経験年数3か月未満	101	8%	8%	4%	3%	5%	2%	14%	398	12%	10%	8%	13%	3%	5%	11%		
経験年数 3か月以上1年未満	258	27%	16%	13%	15%	8%	14%	28%	1081	30%	28%	17%	29%	19%	18%	24%		
経験年数1年以上3年未満	433	36%	35%	29%	23%	15%	28%	45%	1686	43%	50%	31%	27%	30%	21%	39%		
経験年数3年以上5年未満	424	36%	44%	24%	23%	20%	16%	36%	1554	40%	49%	24%	14%	19%	22%	27%		
経験年数5年以上7年未満	327	31%	30%	12%	15%	23%	21%	30%	1211	31%	38%	17%	14%	18%	16%	19%		
経験年数7年以上10年未満	211	20%	19%	14%	9%	8%	19%	19%	682	19%	20%	11%	6%	11%	9%	10%		
経験年数10年以上	458	31%	26%	37%	42%	53%	49%	39%	849	23%	17%	20%	16%	29%	28%	21%		
合計	2212								7461									
回答件数	340	277	289	118	201	66	43	290	1606	1416	1484	293	194	267	290	151		
	※経験年数〇以上〇未満が1名以上の事業所数でカウント									※経験年数〇以上〇未満が1名以上の事業所数でカウント								

職業別割合	リスト選択① 運営法人リスト									リスト選択① 運営法人リスト									リスト選択① 運営法人リスト								
	リスト選択② 自治体									リスト選択② 社会福祉法人									リスト選択② 株式会社								
	合計	保育士	児童指導員	OT	PT	ST	心理職	看護職		合計	保育士	児童指導員	OT	PT	ST	心理職	看護職		合計	保育士	児童指導員	OT	PT	ST	心理職	看護職	
経験年数3か月未満	30	7%	8%	1%	2%	3%	6%	4%	144	8%	6%	5%	2%	1%	3%	8%	609	13%	12%	9%	13%	8%	7%	18%			
経験年数 3か月以上1年未満	114	43%	16%	15%	5%	8%	10%	12%	513	31%	23%	12%	11%	9%	8%	21%	1522	32%	32%	26%	31%	23%	23%	27%			
経験年数1年以上3年未満	192	63%	31%	16%	17%	17%	19%	28%	865	48%	40%	25%	26%	22%	15%	32%	2328	46%	54%	33%	37%	33%	29%	41%			
経験年数3年以上5年未満	189	59%	36%	24%	10%	17%	19%	24%	858	47%	46%	20%	23%	13%	19%	23%	2023	40%	53%	23%	15%	17%	20%	27%			
経験年数5年以上7年未満	176	53%	28%	18%	10%	29%	26%	16%	708	37%	36%	13%	19%	20%	18%	25%	1439	27%	39%	10%	13%	14%	17%	23%			
経験年数7年以上10年未満	159	52%	30%	13%	17%	13%	16%	16%	558	28%	29%	15%	10%	15%	22%	16%	624	12%	16%	7%	4%	5%	7%	12%			
経験年数10年以上	366	73%	43%	71%	76%	66%	65%	42%	857	40%	29%	37%	36%	51%	46%	33%	617	15%	10%	10%	6%	17%	13%	18%			
合計	1226								4503									9162									
回答件数	157	150	102	68	59	77	62	67	839	762	728	167	132	163	157	222	2109	1761	1984	309	267	202	316	217			
	※経験年数〇以上〇未満が1名以上の事業所数でカウント									※経験年数〇以上〇未満が1名以上の事業所数でカウント									※経験年数〇以上〇未満が1名以上の事業所数でカウント								

職業別割合	リスト選択① 運営法人リスト								リスト選択① 運営法人リスト								リスト選択① 運営法人リスト							
	リスト選択② NPO法人								リスト選択② 合同会社								リスト選択② 一般社団法人							
	合計	保育士	児童指導員	OT	PT	ST	心理職	看護職	合計	保育士	児童指導員	OT	PT	ST	心理職	看護職	合計	保育士	児童指導員	OT	PT	ST	心理職	看護職
経験年数3か月未満	98	8%	7%	1%	2%	3%	4%	10%	111	12%	10%	8%	12%	0%	4%	22%	72	9%	9%	2%	5%	9%	5%	11%
経験年数 3か月以上1年未満	277	21%	19%	15%	15%	8%	13%	20%	221	24%	19%	23%	20%	18%	15%	26%	201	26%	22%	14%	30%	27%	19%	23%
経験年数1年以上3年未満	503	35%	41%	22%	15%	29%	8%	32%	460	44%	50%	42%	28%	18%	23%	42%	359	42%	51%	29%	20%	23%	26%	39%
経験年数3年以上5年未満	569	35%	52%	12%	18%	15%	23%	38%	405	37%	52%	6%	18%	18%	21%	22%	322	37%	51%	22%	11%	14%	18%	32%
経験年数5年以上7年未満	466	31%	43%	15%	12%	14%	11%	24%	306	28%	38%	21%	8%	16%	8%	18%	265	32%	41%	20%	9%	7%	16%	23%
経験年数7年以上10年未満	375	26%	33%	16%	11%	15%	12%	15%	155	17%	17%	2%	2%	16%	8%	12%	133	15%	21%	10%	0%	9%	9%	7%
経験年数10年以上	572	38%	35%	38%	48%	46%	55%	37%	171	16%	16%	19%	18%	18%	21%	10%	198	21%	18%	18%	41%	36%	26%	41%
合計	2860								1829								1550							
回答件数	616	507	562	74	66	79	75	125	457	380	428	53	50	49	48	50	352	301	327	49	44	44	57	44

※経験年数○以上○未満が1名以上の事業所数でカウント

(参考) 運営主体と開設年





	リスト選択①							リスト選択②							リスト選択①							リスト選択②						
	運営法人リスト							社会福祉法人							株式会社							株式会社						
	自治体							社会福祉法人							株式会社							株式会社						
職種共通	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上
①個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者に提案・協力し、計画に沿った支援を適切に行っている	156	4%	13%	26%	18%	17%	22%	833	6%	17%	30%	19%	12%	15%	2067	8%	20%	30%	24%	11%	8%	2067	8%	20%	30%	24%	11%	8%
②食育のねらいを理解し、健康状態、発育・発達段階に応じた食事内容、食物形態、備食指導などを工夫して適切に支援している	111	5%	12%	33%	14%	13%	24%	638	6%	17%	34%	21%	11%	12%	1189	6%	20%	32%	24%	9%	8%	1189	6%	20%	32%	24%	9%	8%
③子どもの身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている	149	11%	15%	25%	15%	15%	18%	820	14%	22%	27%	18%	9%	10%	2025	14%	24%	29%	21%	7%	6%	2025	14%	24%	29%	21%	7%	6%
④睡眠、食事、排泄、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している	147	7%	17%	27%	16%	14%	19%	810	9%	22%	32%	18%	9%	10%	1924	12%	24%	30%	21%	7%	6%	1924	12%	24%	30%	21%	7%	6%
⑤日常生活に必要な姿勢保持や上肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している	133	5%	13%	24%	15%	15%	23%	660	6%	16%	32%	23%	11%	13%	1611	10%	22%	32%	22%	7%	7%	1611	10%	22%	32%	22%	7%	7%
⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている	153	6%	12%	25%	17%	17%	23%	813	7%	17%	31%	22%	11%	12%	2043	10%	22%	33%	22%	7%	6%	2043	10%	22%	33%	22%	7%	6%
⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達できるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている	154	6%	12%	25%	19%	18%	20%	794	7%	20%	33%	20%	11%	9%	1978	11%	23%	32%	21%	7%	6%	1978	11%	23%	32%	21%	7%	6%
⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している	156	5%	16%	30%	16%	16%	17%	829	7%	22%	32%	21%	9%	10%	2082	12%	23%	31%	22%	7%	6%	2082	12%	23%	31%	22%	7%	6%
⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している	157	5%	12%	30%	19%	17%	17%	829	7%	20%	31%	23%	10%	10%	2084	10%	24%	32%	22%	7%	6%	2084	10%	24%	32%	22%	7%	6%
⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援している	153	5%	14%	29%	17%	18%	18%	822	6%	21%	33%	22%	10%	9%	2064	11%	24%	32%	21%	7%	6%	2064	11%	24%	32%	21%	7%	6%
⑪子どもとの行動の課題（多動・他害・自傷等を含む）の原因を理解して、適切な方法で支援している	157	4%	11%	26%	20%	19%	19%	819	4%	16%	30%	26%	11%	12%	2070	8%	21%	33%	24%	8%	7%	2070	8%	21%	33%	24%	8%	7%
⑫子どもの困り感に対して、環境や人との関係性との相互作用、発達段階及び発達特性を捉えて適切に支援を行っている	156	4%	13%	24%	20%	19%	20%	820	4%	17%	29%	26%	12%	13%	2075	8%	20%	33%	24%	8%	7%	2075	8%	20%	33%	24%	8%	7%
⑬子どもの行動や特徴を理解して、気持ちや情動のコントロールができるように適切に支援している	155	4%	11%	26%	21%	19%	19%	826	5%	18%	31%	25%	12%	10%	2088	8%	21%	33%	24%	7%	6%	2088	8%	21%	33%	24%	7%	6%
⑭子ども理解のための各年齢やライフステージでの標準的な発達を理解している	157	4%	11%	25%	21%	18%	21%	813	4%	15%	29%	25%	13%	13%	2053	7%	20%	33%	25%	8%	7%	2053	7%	20%	33%	25%	8%	7%
⑮移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている	154	2%	10%	19%	21%	23%	24%	802	2%	13%	25%	28%	16%	17%	2001	5%	17%	33%	26%	10%	8%	2001	5%	17%	33%	26%	10%	8%
⑯子ども心の課題、メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑戦等）を理解し、適切に支援している	141	2%	11%	23%	18%	17%	28%	763	3%	12%	28%	26%	15%	16%	1914	6%	18%	34%	25%	9%	8%	1914	6%	18%	34%	25%	9%	8%
⑰服薬やアレルギー、てんかん発作等のこどもの健康等に関する状況を把握している	147	6%	13%	21%	17%	17%	26%	802	7%	19%	29%	21%	11%	12%	1898	9%	20%	31%	24%	8%	8%	1898	9%	20%	31%	24%	8%	8%
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）]	154	7%	11%	27%	18%	19%	18%	781	6%	19%	34%	23%	10%	9%	2062	9%	24%	33%	22%	6%	6%	2062	9%	24%	33%	22%	6%	6%
⑲理解し適切な配慮と支援をしている [知的障害]	152	8%	13%	25%	19%	17%	18%	806	7%	22%	32%	21%	9%	9%	2032	10%	24%	32%	22%	6%	6%	2032	10%	24%	32%	22%	6%	6%
⑳理解し適切な配慮と支援をしている [肢体不自由]	110	4%	13%	27%	20%	12%	25%	481	5%	20%	31%	22%	10%	12%	970	10%	22%	30%	24%	8%	6%	970	10%	22%	30%	24%	8%	6%
㉑理解し適切な配慮と支援をしている [重症心身障害]	85	4%	11%	19%	25%	11%	32%	324	4%	15%	27%	26%	10%	17%	555	8%	17%	32%	25%	9%	8%	555	8%	17%	32%	25%	9%	8%
㉒理解し適切な配慮と支援をしている [医療的ケア]	79	4%	8%	18%	23%	16%	32%	266	5%	11%	29%	26%	12%	17%	432	11%	18%	29%	25%	9%	9%	432	11%	18%	29%	25%	9%	9%
㉓理解し適切な配慮と支援をしている [聴覚障害]	82	4%	10%	23%	23%	13%	27%	299	7%	19%	33%	20%	9%	12%	669	10%	25%	29%	25%	7%	5%	669	10%	25%	29%	25%	7%	5%
㉔理解し適切な配慮と支援をしている [視覚障害]	69	4%	12%	25%	23%	9%	28%	239	6%	18%	30%	23%	9%	13%	515	11%	23%	29%	25%	7%	4%	515	11%	23%	29%	25%	7%	4%
㉕理解し適切な配慮と支援をしている [マルチリポートメント（虐待等）]	105	3%	15%	23%	18%	17%	24%	479	5%	13%	28%	24%	13%	18%	1175	8%	18%	31%	25%	10%	8%	1175	8%	18%	31%	25%	10%	8%
	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上
①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している	148	7%	17%	25%	15%	18%	18%	813	11%	24%	29%	16%	9%	11%	1992	11%	26%	28%	22%	8%	8%	1992	11%	26%	28%	22%	8%	8%
②事業所だより等の中で事務連絡にとまらず子どもの発達の見方や発達等について適切に情報を発信している	143	6%	9%	24%	17%	17%	27%	748	4%	14%	28%	23%	13%	18%	1913	6%	21%	30%	25%	9%	8%	1913	6%	21%	30%	25%	9%	8%
③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている	154	3%	8%	19%	20%	21%	28%	792	2%	7%	23%	26%	18%	24%	1967	4%	16%	30%	28%	12%	10%	1967	4%	16%	30%	28%	12%	10%
④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている	157	2%	10%	21%	21%	18%	28%	818	2%	10%	24%	27%	16%	20%	2060	5%	17%	29%	28%	12%	10%	2060	5%	17%	29%	28%	12%	10%
⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている	155	3%	9%	20%	22%	19%	28%	771	1%	6%	21%	28%	19%	24%	1925	3%	14%	29%	30%	14%	11%	1925	3%	14%	29%	30%	14%	11%
⑥家族支援プログラム（例：ペアレントトレーニング）を適切に行っている	110	2%	6%	19%	17%	21%	35%	518	1%	5%	22%	23%	21%	27%	1423	3%	14%	28%	30%	12%	12%	1423	3%	14%	28%	30%	12%	12%
⑦虐待のリスクのリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている	136	1%	10%	19%	18%	23%	29%	697	2%	7%	22%	24%	19%	26%	1827	5%	15%	29%	28%	12%	11%	1827	5%	15%	29%	28%	12%	11%
	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上
①担当しているおさまが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている	153	4%	10%	25%	18%	18%	24%	801	2%	9%	24%	26%	17%	21%	1996	5%	16%	30%	28%	12%	10%	1996	5%	16%	30%	28%	12%	10%
②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている	153	3%	6%	22%	16%	22%	31%	791	1%	6%	18%	26%	20%	29%	1989	3%	12%	29%	30%	14%	12%	1989	3%	12%	29%	30%	14%	12%
③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている	155	3%	8%	24%	16%	22%	27%	765	1%	6%	22%	27%	19%	25%	1874	3%	13%	29%	30%	14%	11%	1874	3%	13%	29%	30%	14%	11%
④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている	115	1%	5%	22%	12%	18%	42%	404	1%	5%	19%	24%	18%	34%	999	4%	14%	27%	30%	13%	12%	999	4%	14%	27%	30%	13%	12%
⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている	122	2%	4%	10%	18%	20%	47%	421	1%	3%	13%	24%	20%	39%	1036	3%	12%	26%	31%	14%	14%	1036	3%	12%	26%	31%	14%	14%
⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している	129	2%	10%	15%	12%	16%	45%	589	1%	5%	14%	20%	20%	41%	1361	4%	12%	26%	30%	15%	13%	1361	4%	12%	26%	30%	15%	13%
	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上
①障害特性を踏まえた安心安全な環境改善を適切に行っている	155	5%	13%	21%	21%	17%	23%	826	3%	14%	29%	24%	12%	17%	2081	7%	19%	31%	24%	11%	7%	2081	7%	19%	31%	24%	11%	7%
②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出、改善の提案を適切に行っている	155	3%	6%	19%	16%	19%	37%	814	2%	7%	21%	24%	17%	28%	2054	4%	16%	29%	28%	12%	10%	2054	4%	16%	29%	28%	12%	10%
③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている	156	6%	12%	26%	19%	19%	18%	827	5%	20%	30%	23%	10%	12%	2074	9%	25%	30%	23%	7%	6%	2074	9%	25%	30%	23%	7%	6%
④PDCAを意識して発達を支援し、かつ記録に反映している	152	5%	9%	28%	20%	20%	18%	808	4%	15%	29%	26%	12%	14%	2046	8%	22%	30%	25%	9%	6%	2046	8%	22%	30%	25%	9%	6%
⑤モニタリングをし、個別支援計画の変更や終結を児童発達支援管理責任者に提案・協力している	155	5%	13%	24%	19%	19%	20%	818	5%	17%	30%	23%	12%	13%	2060	7%	20%	30%	26%	9%	7%	2060	7%	20%	30%	26%	9%	7%
⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている	157	15%	16%	19%	13%	18%	18%	833	17%	19%	22%																	

職種共通	リスト選択① 運営法人リスト										リスト選択② 運営法人リスト										リスト選択① 運営法人リスト										リスト選択② 運営法人リスト									
	リスト選択② NPO法人					リスト選択① 合同会社					リスト選択② 一般社団法人					リスト選択① 合同会社					リスト選択② 一般社団法人																			
	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上												
①個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者に提案・協力し、計画に沿った支援を適切に行っている	607	4%	15%	26%	24%	14%	16%	446	5%	17%	30%	24%	11%	12%	348	6%	23%	24%	21%	14%	13%																			
②食育のねらいを理解し、健康状態、発育・発達段階に応じた食事内容、食物形態、備食指導などを工夫して適切に支援している	402	3%	19%	28%	24%	11%	15%	277	6%	18%	32%	23%	10%	11%	215	6%	23%	31%	22%	7%	12%																			
③日々子どもの健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要対応を行っている	596	10%	19%	27%	22%	10%	12%	436	9%	23%	28%	23%	8%	10%	342	10%	27%	28%	18%	8%	9%																			
④睡眠、食事、排泄、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している	576	7%	19%	29%	23%	10%	12%	428	8%	22%	29%	24%	8%	9%	338	6%	28%	28%	20%	7%	10%																			
⑤日常生活に必要な姿勢保持や下肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している	464	4%	17%	28%	24%	13%	15%	345	5%	22%	32%	24%	8%	9%	260	7%	25%	29%	22%	6%	10%																			
⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている	598	5%	17%	29%	25%	11%	13%	442	5%	18%	31%	27%	9%	10%	346	5%	25%	29%	21%	8%	11%																			
⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達ができるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている	581	6%	18%	30%	22%	12%	13%	422	6%	19%	32%	26%	8%	8%	336	7%	26%	28%	21%	7%	11%																			
⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している	609	6%	19%	29%	23%	11%	12%	450	5%	22%	31%	25%	8%	8%	349	7%	27%	28%	19%	7%	10%																			
⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している	608	5%	18%	30%	22%	12%	13%	452	5%	22%	32%	25%	9%	8%	349	7%	26%	30%	20%	7%	10%																			
⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援している	604	5%	19%	30%	23%	10%	13%	449	5%	22%	32%	24%	8%	9%	346	6%	28%	29%	21%	7%	10%																			
⑪子どもの行動の課題（多動・他害・自傷等を含む）の原因を理解して、適切な方法で支援している	603	3%	13%	30%	25%	13%	15%	448	4%	16%	35%	27%	8%	10%	344	4%	24%	30%	22%	7%	12%																			
⑫子どもの困り感に対して、環境や人との関係性との相互作用、発達段階及び発達特性を捉えて適切に支援を行っている	605	3%	13%	29%	27%	14%	15%	450	4%	16%	32%	29%	9%	10%	347	5%	24%	31%	23%	8%	10%																			
⑬子どもの行動や特徴を理解して、気持ちや情動のコントロールができるように適切な支援を行っている	609	4%	14%	31%	26%	13%	13%	452	4%	17%	32%	28%	9%	10%	346	4%	25%	33%	21%	8%	10%																			
⑭子ども理解のための各年齢やライフステージでの標準的な発達を理解している	600	3%	13%	28%	27%	14%	15%	446	3%	17%	34%	27%	9%	11%	346	4%	22%	32%	22%	7%	12%																			
⑮移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている	597	2%	9%	27%	27%	15%	19%	435	3%	12%	32%	30%	11%	11%	340	3%	19%	28%	24%	10%	15%																			
⑯子どもの心理的課題・メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑戦等）を理解し、適切に支援している	563	3%	9%	27%	27%	15%	18%	419	4%	13%	33%	27%	11%	11%	315	3%	21%	29%	24%	9%	14%																			
⑰服薬やアレルギー、てんかん発作等のこどもの健康等に関する状況を把握している	575	6%	18%	27%	21%	13%	15%	412	6%	17%	31%	27%	8%	11%	316	7%	23%	27%	22%	9%	13%																			
⑱理解し適切な配慮と支援をしている〔発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）〕	591	5%	18%	30%	23%	11%	13%	447	5%	21%	33%	25%	7%	9%	340	6%	27%	29%	22%	6%	10%																			
⑲理解し適切な配慮と支援をしている〔知的障害〕	594	6%	21%	29%	20%	10%	13%	445	6%	21%	33%	24%	7%	8%	344	6%	28%	28%	21%	7%	10%																			
⑳理解し適切な配慮と支援をしている〔肢体不自由〕	342	6%	20%	25%	22%	11%	15%	218	4%	23%	24%	33%	7%	9%	168	8%	24%	30%	19%	7%	13%																			
㉑理解し適切な配慮と支援をしている〔重症心身障害〕	222	4%	16%	24%	24%	14%	18%	145	7%	16%	29%	33%	6%	10%	104	12%	17%	32%	21%	7%	12%																			
㉒理解し適切な配慮と支援をしている〔医療的ケア〕	162	4%	20%	26%	23%	9%	17%	109	11%	15%	27%	29%	4%	15%	79	8%	19%	30%	27%	4%	13%																			
㉓理解し適切な配慮と支援をしている〔聴覚障害〕	204	7%	19%	25%	21%	11%	17%	150	9%	19%	28%	26%	8%	9%	128	14%	21%	21%	22%	8%	14%																			
㉔理解し適切な配慮と支援をしている〔視覚障害〕	164	8%	20%	23%	23%	12%	15%	126	11%	19%	28%	29%	6%	8%	93	15%	25%	25%	23%	3%	10%																			
㉕理解し適切な配慮と支援をしている〔マルチリポート（虐待等）〕	330	7%	12%	25%	22%	14%	21%	264	6%	16%	31%	28%	11%	9%	189	3%	22%	28%	23%	8%	17%																			
合計	593	8%	19%	26%	22%	11%	15%	438	8%	22%	29%	25%	7%	8%	336	9%	26%	27%	21%	8%	9%																			
①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している	573	3%	12%	24%	26%	17%	18%	417	3%	19%	29%	27%	9%	13%	317	4%	21%	30%	23%	10%	12%																			
②事業所だより等の中で事務連絡にとどまらず子どもの発達の見方や発達等について適切に情報を発信している	587	2%	8%	20%	27%	18%	25%	434	3%	11%	26%	32%	13%	15%	328	3%	16%	29%	25%	13%	16%																			
③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている	602	2%	7%	24%	26%	18%	23%	451	3%	11%	27%	31%	12%	16%	345	2%	16%	28%	24%	13%	18%																			
④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている	557	1%	6%	19%	27%	20%	27%	426	2%	10%	26%	32%	13%	17%	320	1%	12%	28%	26%	14%	19%																			
⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている	403	1%	6%	19%	27%	21%	25%	314	2%	11%	26%	30%	12%	18%	243	1%	13%	28%	27%	13%	19%																			
⑥家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている	518	2%	9%	20%	28%	17%	24%	390	3%	12%	30%	30%	12%	14%	295	2%	17%	24%	25%	12%	20%																			
合計	582	2%	7%	22%	27%	18%	24%	439	4%	15%	24%	30%	12%	15%	335	4%	16%	25%	26%	12%	17%																			
①担当しているおさんが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている	588	2%	6%	15%	27%	21%	29%	437	2%	10%	24%	32%	13%	19%	325	1%	15%	24%	28%	14%	18%																			
②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている	544	1%	7%	18%	27%	20%	26%	416	3%	9%	28%	30%	13%	17%	307	1%	14%	25%	29%	14%	18%																			
③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている	280	2%	7%	15%	24%	21%	32%	203	3%	8%	22%	36%	12%	19%	148	1%	12%	22%	28%	9%	28%																			
④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている	280	1%	7%	12%	21%	22%	36%	232	3%	7%	21%	33%	13%	23%	161	1%	12%	24%	29%	9%	25%																			
⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている	433	1%	6%	15%	25%	20%	33%	300	3%	10%	20%	33%	14%	19%	249	2%	12%	23%	32%	12%	19%																			
⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している	合計	608	4%	14%	25%	25%	14%	18%	451	5%	16%	30%	28%	10%	12%	349	6%	20%	27%	22%	11%	13%																		
①障害特性を踏まえた安心安全な環境改善を適切に行っている	603	3%	9%	20%	26%	18%	24%	449	3%	11%	30%	29%	12%	15%	347	1%	20%	22%	26%	13%	17%																			
②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出や、改善の提案を適切に行っている	602	4%	16%	28%	24%	13%	14%	450	5%	21%	31%	26%	8%	9%	352	6%	26%	26%	22%	9%	13%																			
③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている	584	5%	15%	24%	27%	14%	15%	446	4%	18%	34%	25%	9%	10%	342	7%	24%	27%	23%	8%	11%																			
④P D C Aを意識して発達を支援し、かつ記録に反映している	609	3%	13%	26%	26%	16%	16%	446	5%	16%	30%	28%	9%	12%	345	6%	21%	28%	22%	11%	12%																			
⑤モニタリングをし、個別支援計画の変更や最終を児童発達支援管理責任者に提案・協力している	611	14%	15%	22%	22%	12%	15%	454	10%	16%	27%	25%	11%	11%	350	16%	22%	21%	19%	11%	11%																			
⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている	609	12%	16%	25%	22%	11%	14%	453	9%	21%	30%	23%	8%	10%	351	14%	25%	23%	19%	9%	10%																			
⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解して、自ら実践している	564	7%	18%	26%	24%	13%	12%	422	6%	19%	35%	24%	7%	10%	326	8%	27%	26%	22%	7%	10%																			
⑧支援の現場において多職種連携によるチームアプローチで、自らの役割を意識して参加ができる	561	9%	12%	21%	23%	16%	19%	399	8%	17%	32%	24%	10%	10%	320	10%	17%	27%	24%	10%	13%																			
⑨所属組織内の委員会等（虐待防止委員会、コンプライアンス委員会、倫理委員会等）に参加している	608	14%	18%	22%	20%	13%	13%	451	10%	22%	28%	24%	6%	9%	348	15%	24%	23%	19%	8%	11%																			
⑩組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあたっている	612	13%	18%	22%	21%	13%	13%	454	10%	22%	29%	23%	7%	9%	350	13%	27%	23%	20%	8%	9%																			
⑪組織としての法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	599	4%	9%	19%	25%	17%	27%	447	5%	11%	30%	28%	11%	15%	338	7%	16%	23%	26%	12%	16%																			
⑫組織としてのリスクマネジメント（災害・感染症・事故等発生時対応、対策等）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	601	3%	8%	19%	27%	17%	24%	450	4%	14%	27%	29%	11%	15%	342	5%	17%	25%	25%	11%	17%																			

## ⑥結果（職種別調査）

保育士、児童指導員、OT（作業療法士）、PT（理学療法士）、ST（言語聴覚士）、心理職、看護職へ、それぞれ次の質問を行った。調査項目は下記の通りである。

### 【保育士 14 項目】

- ① 発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、保育士としての専門性を発揮している
- ② 発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、保育士の視点から提案している
- ③ 事業所内において、必要な時に、保育士の視点からコンサルテーション・助言をしている
- ④ 保育士として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている
- ⑤ 保育士として標準化されたアセスメントを適切に実践している
- ⑥ 保育士として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている
- ⑦ 保護者に対して、保育士の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている
- ⑧ 地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている
- ⑨ これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術をもって支援を行っている
- ⑩ 子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術をもって支援を行っている
- ⑪ 事業所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術をもって支援を行っている
- ⑫ 子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術をもって支援を行っている
- ⑬ 保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって支援を行っている
- ⑭ いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている

### 【児童指導員 11 項目】

- ① 発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、児童指導員としての専門性を発揮している
- ② 発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、児童指導員の視点から提案している

- ③ 事業所内において、必要な時に、児童指導員の視点からコンサルテーション・助言をしている
- ④ 児童指導員として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている
- ⑤ 児童指導員として標準化されたアセスメントを適切に実践している
- ⑥ 児童指導員として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている
- ⑦ 保護者に対して、児童指導員の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている
- ⑧ 地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている
- ⑨ 子どもの発達について理解して適切な支援を行っている
- ⑩ いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている
- ⑪ 保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって適切な支援を行っている

**【OT（作業療法士）13項目】**

- ① 発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、OT（作業療法士）としての専門性を発揮している
- ② 発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、OT（作業療法士）の視点から提案している
- ③ 事業所内において、必要な時に、OT（作業療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている
- ④ OT（作業療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている
- ⑤ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している
- ⑥ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている
- ⑦ 保護者に対して、OT（作業療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている
- ⑧ 地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている
- ⑨ ADL（日常生活動作）や活動の様子を観察し、疾患や障害特性と関連させて適切な支援を行っている
- ⑩ 運動・感覚・遊び・情緒・認知・社会性を俯瞰的に評価し、適切な支援を行っている
- ⑪ 車いす、IT 機器、コミュニケーションツール等、代替機器を生活場面に導入する支援を行っている
- ⑫ 子どもの生理的な状況を理解し、適切な環境設定に配慮した生活場面を提供できる

- ⑬ 変形・拘縮などに対して適切に評価して、子どもの適切な生活環境を整えることができる

**【PT（理学療法士）13項目】**

- ① 発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、PT（理学療法士）としての専門性を発揮している
- ② 発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、PT（理学療法士）の視点から提案している
- ③ 事業所内において、必要な時に、PT（理学療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている
- ④ PT（理学療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている
- ⑤ PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している
- ⑥ PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている
- ⑦ 保護者に対して、PT（理学療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている
- ⑧ 地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている
- ⑨ 心身機能・運動発達について、適切な支援を行っている
- ⑩ 生活における姿勢保持について、適切な支援を行っている
- ⑪ 車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を活用して適切な支援を行っている
- ⑫ 呼吸管理が必要な子どもに対して適切に支援を行っている
- ⑬ 変形・拘縮がある子どもの身体管理を適切に行っている

**【ST（言語聴覚士）14項目】**

- ① 発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、ST（言語聴覚士）としての専門性を発揮している
- ② 発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、ST（言語聴覚士）の視点から提案している
- ③ 事業所内において、必要な時に、ST（言語聴覚士）の視点からコンサルテーション・助言をしている
- ④ ST（言語聴覚士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている
- ⑤ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している

- ⑥ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている
- ⑦ 保護者に対して、ST（言語聴覚士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている
- ⑧ 地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている
- ⑨ 話す（発信）・聞く（受信）・食べる（摂食）等コミュニケーション全般について、ST（言語聴覚士）として適切な支援を行っている
- ⑩ 子どもの障害や特性と言語や発声、発音、聴覚、認知などの機能の状況に合わせた適切な支援を行っている
- ⑪ 食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する適切な支援を行っている
- ⑫ 人工内耳、補聴器等の調整を医療と連携して行い、本人の生活しやすい状況の評価や環境調整についての適切な支援を行っている
- ⑬ 聴力検査機器を使って聴力検査を適切に行っている
- ⑭ 手話通訳士もしくは準ずる資格をもって適切に支援を行っている

#### 【心理職 16 項目】

- ① 発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、心理職としての専門性を発揮している
- ② 発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どものための個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、心理職の視点から提案している
- ③ 事業所内において、必要な時に、心理職の視点からコンサルテーション・助言をしている
- ④ 心理職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている
- ⑤ 心理職として標準化されたアセスメントを適切に実践している
- ⑥ 心理職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている
- ⑦ 保護者に対して、心理職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている
- ⑧ 地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている
- ⑨ 愛着形成の適切な支援を行っている
- ⑩ 感覚認知発達の適切な支援を行っている
- ⑪ 情緒行動の成り立ちの適切な支援を行っている
- ⑫ 社会性コミュニケーションの適切な支援を行っている
- ⑬ 環境との相互作用の視点から発達を総合的に捉えて適切な支援を行っている
- ⑭ カウンセリングの視点をもって家族支援を適切に行っている
- ⑮ 保護者に対して適切にグループ支援をしている

- ⑫ 不適切な養育に対する養育者への心理支援（カウンセリング・障害の受容・困難を抱える家族）・対応を適切に行っている

【看護職 12 項目】

- ① 発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、看護職としての専門性を発揮している
- ② 発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、看護職の視点から提案している
- ③ 事業所内において、必要な時に、看護職の視点からコンサルテーション・助言をしている
- ④ 看護職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている
- ⑤ 看護職として標準化されたアセスメントを適切に実践している
- ⑥ 看護職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている
- ⑦ 保護者に対して、看護職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている
- ⑧ 地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている
- ⑨ 個別に子どもの看護支援、医療的ケアを行っている
- ⑩ 服薬管理、アレルギー・怪我や事故、緊急時対応を含む、健康管理を行っている
- ⑪ 食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する支援を、適切に行っている
- ⑫ 職員を含む、事業所内全体の感染対策、緊急時対策、事故対策、健康管理などを実施している

## ⑦分析・考察（職種別調査）

### I.分析

#### **【保育士・児童指導員】**

調査項目のすべての項目で1年目以上3年未満と5年目以上7年目未満が20%前後、3年目以上5年未満は、30%前後と多くなっている。

1年目以上で、直接支援だけでなく、アセスメントを行い、それに基づき、保育士の視点（遊びを大切に）で環境設定や支援を行っている。

保育士・児童指導員の職種別では、経験年数によつての差異はほとんど認められなかった。

#### **【OT（作業療法士）】**

1年以上3年未満が、25%から30%前が多くなっている。

一方、10年以上で多いのは ⑧地域の保育園・幼稚園・学校などの関係機関への連携支援に関して25%と、⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等代替え機器を生活場面に導入26%となっており、OTとしての専門的知識や技術などが必要とされる支援や外部の関係機関との連携やスーパーバイズしている実態がうかがえる。

#### **【PT（理学療法士）】**

ほとんどの項目で、3か月未満、1年以上3年未満、10年以上と3つの年代に分かれて20%から25%前後となっている。

一方、10年以上で多い3つは、⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等代替え機器を生活場面に導入するでは29%、呼吸管理の必要な子どもに対しての適切な支援31%、⑬変形・拘縮がある子どもの身体管理が27%となっている。PTとしての専門的知識や技術などが必要とされる支援や外部の関係機関との連携やスーパーバイズしている実態がうかがえる

#### **【ST（言語聴覚士）】**

一番多いのは、10年目以上で25%から36%となっている。

次に多いのは、1年目以上3年未満が20%前後となっている。

STとしての専門的知識や技術などが必要とされる検査（⑬）、や直接支援（⑩、⑫、⑭）や外部の耳鼻科など医療機関、関係機関との連携（⑫）や保育園等へスーパーバイズ（⑧：32%）している実態がうかがえる。

#### **【心理職】**

一番多いのは、10年目以上で21%から29%となっている。

次に多いのは、1年目以上3年未満、3年目以上5年未満が20%前後となっている。

心理職としての専門的知識や技術などが必要とされる検査 (⑬)、や直接支援 (⑨、⑩、⑪) や保護者支援 (要支援・要保護ケース) (⑭、⑮、⑯) や関係機関と連携や保育園等へスーパーバイズ (⑧：27%) している実態がうかがえる。

### **【看護職】**

1年以上3年未満 (20%~25%)、3年以上5年未満 (19%~24%)、10年以上 (19%~22%) が、3つの年数が全体として20%前後となっている。

**看護職は、児童発達支援センター・児童発達、多機能型に在籍が多く、放課後等デイサービス (7%) の分布がある。**

## II. 考察

OT/PT と ST/心理職の職種間で経験年数の差異がみられる。これは、事業所別調査からは、ST は、児童発達支援センター (36%)・医療型センター (59%) に在籍しており、心理職については、児童発達支援センター (32%)・児童発達 (18%)、多機能型 (17%) に在籍が多く、ST/心理職ともに、放課後等デイサービスは少ない分布 (ST は4%、心理職は9%) で、学齢期には学校における教育支援と ST/心理職の個別の支援が重なるため経験年数が長い職員は未就学の幼児期の子どもへの支援が中心となっているかもしれない。

一方、看護職は、児童発達支援センター・児童発達、多機能型に在籍が多く、「医療的ケア児」を含む重症心身障害児への支援が広く実施されて解釈できるが、放課後等デイサービス (7%) と低く、医療的支援の必要な重症児への支援提供は少ないのかもしれない。

事業種別にみると、センターでは、OT・PT・ST 等リハ職、心理職、看護職などで10年以上が多いが、職員数の多さ、公的機関が多いことが影響している可能性がある。放デイではばらつくなど違いが見られ、比較的小規模では多様な業務を担う可能性が考えられる。

職種別では、保育士、リハ職で10年以上の経験者が社福、自治体、NPO で多い傾向にあり、社福、NPO などの民間事業で長く経験を積んでいることがわかる。対して、株式会社では比較的経験年数が他の事業種より浅い傾向にあり、家族支援や地域支援での役割を担う負担が考えられる。

次の内容について、貴事業所では、何年以上（何か月以上）の障害児支援の経験を有する職員（保育士）が該当しますか。

保育士	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、保育士としての専門性を発揮している	429 (11%)	958 (25%)	1092 (29%)	638 (17%)	314 (8%)	361 (10%)	3792
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、保育士の視点から提案している	359 (10%)	873 (23%)	1089 (29%)	673 (18%)	334 (9%)	392 (11%)	3720
③事業所内において、必要な時に、保育士の視点からコンサルテーション・助言をしている	310 (8%)	760 (20%)	1030 (27%)	736 (20%)	377 (10%)	534 (14%)	3747
④保育士として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	312 (9%)	815 (23%)	1038 (29%)	659 (19%)	319 (9%)	417 (12%)	3560
⑤保育士として標準化されたアセスメントを適切に実践している	328 (9%)	843 (23%)	1053 (29%)	660 (18%)	325 (9%)	409 (11%)	3618
⑥保育士として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	270 (8%)	735 (21%)	1016 (29%)	694 (20%)	347 (10%)	489 (14%)	3551
⑦保護者に対して、保育士の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	334 (9%)	799 (21%)	1100 (29%)	727 (19%)	361 (10%)	466 (12%)	3787
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	181 (6%)	532 (18%)	792 (27%)	602 (20%)	335 (11%)	508 (17%)	2950
⑨これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術をもって支援を行っている	266 (8%)	679 (20%)	944 (27%)	707 (20%)	380 (11%)	499 (14%)	3475
⑩子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術をもって支援を行っている	342 (9%)	802 (21%)	1138 (30%)	707 (19%)	379 (10%)	452 (12%)	3820
⑪事業所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術をもって支援を行っている	364 (10%)	864 (23%)	1114 (29%)	684 (18%)	352 (9%)	435 (11%)	3813
⑫子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術をもって支援を行っている	447 (11%)	935 (23%)	1183 (30%)	689 (17%)	341 (9%)	389 (10%)	3984
⑬ 保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって支援を行っている	241 (7%)	639 (18%)	974 (27%)	736 (21%)	407 (11%)	570 (16%)	3567
⑭ いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	235 (7%)	608 (19%)	890 (28%)	639 (20%)	354 (11%)	500 (15%)	3226

次の内容について、貴事業所では、何年以上（何か月以上）の障害児支援の経験を有する職員（児童指導員）が該当しますか。

児童指導員	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、児童指導員としての専門性を発揮している	352	(9%)	1038	(25%)	1311	(32%)	797	(19%)	333	(8%)	301	(7%)	4132
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、児童指導員の視点から提案している	310	(8%)	985	(24%)	1328	(32%)	829	(20%)	362	(9%)	309	(7%)	4123
③事業所内において、必要な時に、児童指導員の視点からコンサルテーション・助言をしている	237	(6%)	843	(21%)	1259	(31%)	894	(22%)	420	(10%)	398	(10%)	4051
④児童指導員として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	291	(7%)	894	(23%)	1247	(32%)	822	(21%)	347	(9%)	317	(8%)	3918
⑤児童指導員として標準化されたアセスメントを適切に実践している	292	(7%)	928	(23%)	1269	(32%)	827	(21%)	361	(9%)	334	(8%)	4011
⑥児童指導員として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	230	(6%)	822	(21%)	1253	(32%)	849	(22%)	374	(10%)	363	(9%)	3891
⑦保護者に対して、児童指導員の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	269	(7%)	869	(21%)	1306	(32%)	893	(22%)	399	(10%)	366	(9%)	4102
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	169	(5%)	583	(18%)	1004	(31%)	736	(23%)	369	(11%)	350	(11%)	3211
⑨子どもの発達について理解して適切な支援を行っている	343	(8%)	1005	(23%)	1365	(32%)	879	(20%)	373	(9%)	337	(8%)	4302
⑩いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	228	(6%)	727	(20%)	1141	(32%)	794	(22%)	363	(10%)	343	(10%)	3596
⑪保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって適切な支援を行っている	193	(5%)	668	(18%)	1144	(30%)	906	(24%)	420	(11%)	427	(11%)	3758

次の内容について、貴事業所では、何年以上（何か月以上）の障害児支援の経験を有する職員（作業療法士（OT））が該当しますか。

OT	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、OT（作業療法士）としての専門性を発揮している	115	(17%)	189	(29%)	131	(20%)	65	(10%)	45	(7%)	116	(18%)	661
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、OT（作業療法士）の視点から提案している	112	(17%)	188	(28%)	133	(20%)	67	(10%)	47	(7%)	121	(18%)	668
③事業所内において、必要な時に、OT（作業療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	110	(15%)	193	(26%)	142	(19%)	71	(10%)	60	(8%)	153	(21%)	729
④ OT（作業療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	111	(16%)	189	(28%)	135	(20%)	65	(10%)	51	(8%)	129	(19%)	680
⑤ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	109	(16%)	189	(28%)	131	(19%)	69	(10%)	54	(8%)	134	(20%)	686
⑥ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	106	(15%)	184	(26%)	135	(19%)	70	(10%)	55	(8%)	147	(21%)	697
⑦保護者に対して、OT（作業療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	104	(15%)	183	(26%)	138	(20%)	70	(10%)	57	(8%)	148	(21%)	700
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	60	(12%)	112	(22%)	97	(19%)	67	(13%)	46	(9%)	126	(25%)	508
⑨ADL（日常生活動作）や活動の様子を観察し、疾患や障害特性と関連させて適切な支援を行っている	114	(16%)	203	(28%)	133	(18%)	71	(10%)	55	(8%)	150	(21%)	726
⑩運動・感覚・遊び・情緒・認知・社会性を俯瞰的に評価し、適切な支援を行っている	120	(17%)	193	(27%)	134	(18%)	70	(10%)	56	(8%)	152	(21%)	725
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を生活場面に導入する支援を行っている	52	(12%)	110	(25%)	84	(19%)	48	(11%)	35	(8%)	116	(26%)	445
⑫子どもの生理的な状況を理解し、適切な環境設定に配慮した生活場面を提供できる	105	(16%)	184	(27%)	120	(18%)	73	(11%)	51	(8%)	144	(21%)	677
⑬変形・拘縮などに対して適切に評価して、子どもの適切な生活環境を整えることができる	79	(14%)	144	(25%)	102	(18%)	63	(11%)	46	(8%)	132	(23%)	566

次の内容について、貴事業所では、何年以上（何か月以上）の障害児支援の経験を有する職員（PT（理学療法士））が該当しますか。

PT	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、PT（理学療法士）としての専門性を発揮している	132	(24%)	137	(24%)	89	(16%)	64	(11%)	23	(4%)	115	(21%)	560
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、PT（理学療法士）の視点から提案している	128	(22%)	142	(25%)	88	(15%)	68	(12%)	26	(5%)	118	(21%)	570
③事業所内において、必要な時に、PT（理学療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	134	(21%)	152	(24%)	86	(14%)	74	(12%)	29	(5%)	151	(24%)	626
④PT（理学療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	130	(22%)	142	(24%)	84	(14%)	71	(12%)	28	(5%)	132	(22%)	587
⑤PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	125	(21%)	146	(25%)	86	(15%)	70	(12%)	26	(4%)	136	(23%)	589
⑥PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	124	(21%)	143	(24%)	91	(15%)	71	(12%)	29	(5%)	143	(24%)	601
⑦保護者に対して、PT（理学療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	120	(20%)	145	(24%)	86	(14%)	70	(12%)	32	(5%)	141	(24%)	594
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	73	(18%)	99	(24%)	56	(14%)	57	(14%)	23	(6%)	103	(25%)	411
⑨心身機能・運動発達について、適切な支援を行っている	137	(22%)	155	(25%)	89	(14%)	72	(11%)	32	(5%)	145	(23%)	630
⑩生活における姿勢保持について、適切な支援を行っている	139	(22%)	159	(25%)	89	(14%)	72	(11%)	30	(5%)	144	(23%)	633
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を活用して適切な支援を行っている	73	(16%)	97	(22%)	64	(14%)	60	(13%)	23	(5%)	129	(29%)	446
⑫呼吸管理が必要な子どもに対して適切に支援を行っている	47	(13%)	73	(21%)	51	(15%)	49	(14%)	22	(6%)	108	(31%)	350
⑬変形・拘縮がある子どもの身体管理を適切に行っている	80	(16%)	116	(23%)	73	(15%)	66	(13%)	28	(6%)	132	(27%)	495

次の内容について、貴事業所では、何年以上（何か月以上）の障害児支援の経験を有する職員（ST（言語聴覚士））が該当しますか。

ST	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、ST（言語聴覚士）としての専門性を発揮している	73	(13%)	139	(25%)	82	(15%)	73	(13%)	44	(8%)	139	(25%)	550
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、ST（言語聴覚士）の視点から提案している	68	(12%)	137	(25%)	88	(16%)	71	(13%)	49	(9%)	146	(26%)	559
③事業所内において、必要な時に、ST（言語聴覚士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	72	(11%)	130	(21%)	96	(15%)	83	(13%)	53	(8%)	195	(31%)	629
④ ST（言語聴覚士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	77	(13%)	133	(22%)	96	(16%)	82	(14%)	45	(7%)	170	(28%)	603
⑤ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	76	(12%)	139	(23%)	92	(15%)	84	(14%)	48	(8%)	178	(29%)	617
⑥ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	71	(11%)	132	(21%)	97	(16%)	79	(13%)	51	(8%)	189	(31%)	619
⑦保護者に対して、ST（言語聴覚士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	65	(11%)	133	(22%)	98	(16%)	82	(13%)	52	(8%)	188	(30%)	618
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	36	(8%)	93	(20%)	74	(16%)	67	(15%)	42	(9%)	148	(32%)	460
⑨話す（発信）・聞く（受信）・食べる（摂食）等コミュニケーション全般について、ST（言語聴覚士）として適切な支援を行っている	76	(12%)	135	(22%)	95	(15%)	80	(13%)	50	(8%)	188	(30%)	624
⑩子どもの障害や特性と言語や発声、発音、聴覚、認知などの機能の状況に合わせた適切な支援を行っている	75	(12%)	134	(21%)	101	(16%)	84	(13%)	53	(8%)	189	(30%)	636
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する適切な支援を行っている	50	(10%)	102	(21%)	77	(16%)	67	(14%)	35	(7%)	153	(32%)	484
⑫人工内耳、補聴器等の調整を医療と連携して行い、本人の生活しやすい状況の評価や環境調整についての適切な支援を行っている	21	(9%)	45	(18%)	31	(13%)	40	(16%)	20	(8%)	89	(36%)	246
⑬聴力検査機器を使って聴力検査を適切に行っている	16	(9%)	40	(22%)	23	(12%)	32	(17%)	12	(6%)	63	(34%)	186
⑭手話通訳士もしくは準ずる資格をもって適切に支援を行っている	14	(9%)	37	(24%)	22	(14%)	26	(17%)	10	(7%)	43	(28%)	152

次の内容について、貴事業所では、何年以上（何か月以上）の障害児支援の経験を有する職員（心理職）が該当しますか。

心理職	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、心理職としての専門性を発揮している	89	(14%)	146	(23%)	125	(20%)	89	(14%)	46	(7%)	128	(21%)	623
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、心理職の視点から提案している	85	(13%)	141	(22%)	125	(19%)	94	(15%)	53	(8%)	145	(23%)	643
③事業所内において、必要な時に、心理職の視点からコンサルテーション・助言をしている	85	(12%)	134	(19%)	138	(19%)	107	(15%)	64	(9%)	184	(26%)	712
④心理職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	71	(12%)	134	(22%)	124	(20%)	91	(15%)	54	(9%)	143	(23%)	617
⑤心理職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	83	(12%)	142	(21%)	132	(20%)	97	(15%)	57	(9%)	156	(23%)	667
⑥心理職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	70	(10%)	134	(20%)	138	(20%)	100	(15%)	60	(9%)	175	(26%)	677
⑦保護者に対して、心理職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	67	(10%)	133	(19%)	140	(20%)	102	(15%)	65	(9%)	179	(26%)	686
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	46	(9%)	90	(17%)	114	(22%)	79	(15%)	53	(10%)	143	(27%)	525
⑨愛着形成の適切な支援を行っている	66	(10%)	123	(19%)	126	(20%)	96	(15%)	58	(9%)	164	(26%)	633
⑩感覚認知発達の適切な支援を行っている	70	(11%)	126	(20%)	133	(21%)	89	(14%)	60	(9%)	164	(26%)	642
⑪情緒行動の成り立ちの適切な支援を行っている	71	(11%)	127	(19%)	140	(21%)	95	(14%)	60	(9%)	168	(25%)	661
⑫社会性コミュニケーションの適切な支援を行っている	83	(12%)	140	(20%)	147	(21%)	94	(14%)	62	(9%)	169	(24%)	695
⑬環境との相互作用の視点から発達を総合的に捉えて適切な支援を行っている	75	(11%)	130	(19%)	142	(21%)	94	(14%)	64	(9%)	174	(26%)	679
⑭カウンセリングの視点をもって家族支援を適切に行っている	49	(8%)	107	(18%)	126	(21%)	88	(15%)	59	(10%)	173	(29%)	602
⑮保護者に対して適切にグループ支援をしている	39	(8%)	87	(18%)	105	(22%)	70	(15%)	46	(10%)	132	(28%)	479
⑯不適切な養育に対する養育者への心理支援（カウンセリング・障害の受容・困難を抱える家族）・対応を適切に行っている	40	(7%)	91	(17%)	109	(20%)	85	(16%)	55	(10%)	159	(29%)	539

次の内容について、貴事業所では、何年以上（何か月以上）の障害児支援の経験を有する職員（看護職）が該当しますか。

看護職	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、看護職としての専門性を発揮している	60	(10%)	142	(24%)	124	(21%)	98	(16%)	51	(9%)	124	(21%)	599
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、看護職の視点から提案している	63	(10%)	146	(23%)	134	(21%)	101	(16%)	58	(9%)	130	(21%)	632
③事業所内において、必要な時に、看護職の視点からコンサルテーション・助言をしている	79	(11%)	165	(22%)	149	(20%)	115	(16%)	73	(10%)	155	(21%)	736
④看護職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	44	(8%)	137	(25%)	109	(20%)	85	(15%)	59	(11%)	119	(22%)	553
⑤看護職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	63	(10%)	154	(24%)	137	(21%)	93	(14%)	63	(10%)	136	(21%)	646
⑥看護職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	60	(9%)	146	(22%)	135	(21%)	103	(16%)	69	(10%)	145	(22%)	658
⑦保護者に対して、看護職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	69	(10%)	157	(22%)	148	(21%)	111	(16%)	78	(11%)	142	(20%)	705
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	33	(7%)	90	(20%)	109	(24%)	76	(17%)	51	(11%)	101	(22%)	460
⑨個別に子どもの看護支援、医療的ケアを行っている	97	(14%)	144	(21%)	132	(20%)	99	(15%)	61	(9%)	139	(21%)	672
⑩服薬管理、アレルギー・怪我や事故、緊急時対応を含む、健康管理を行っている	109	(15%)	170	(23%)	139	(19%)	112	(15%)	76	(10%)	143	(19%)	749
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する支援を、適切に行っている	76	(12%)	144	(22%)	130	(20%)	104	(16%)	62	(10%)	136	(21%)	652
⑫職員を含む、事業所内全体の感染対策、緊急時対策、事故対策、健康管理などを実施している	85	(12%)	158	(22%)	139	(19%)	120	(16%)	81	(11%)	149	(20%)	732

職員配置（管理者・児発管を除く直接支援職員）

	全体	児童発達支援 センター	医療型児童発 達支援	児童発達支援 のみ	児童発達支援 のみ※重症児 指定	放課後等デイ サービスのみのみ	放課後等デイ サービスのみ ※重症児指定	多機能・一体 型	多機能・一体 型 ※重症児指定
保育士	4114 (84%)	375 (95%)	34 (100%)	492 (94%)	22 (85%)	1577 (77%)	81 (72%)	1393 (87%)	133 (80%)
児童指導員	4459 (91%)	354 (90%)	31 (91%)	419 (80%)	19 (73%)	1937 (94%)	97 (86%)	1462 (91%)	136 (81%)
理学療法士	672 (14%)	85 (22%)	28 (82%)	68 (13%)	20 (77%)	124 (6%)	53 (47%)	196 (12%)	96 (57%)
作業療法士	764 (16%)	140 (36%)	23 (68%)	84 (16%)	5 (19%)	143 (7%)	35 (31%)	279 (17%)	51 (31%)
言語聴覚士	645 (13%)	140 (36%)	20 (59%)	102 (20%)	10 (38%)	78 (4%)	8 (7%)	259 (16%)	27 (16%)
心理担当職員	713 (14%)	125 (32%)	17 (50%)	94 (18%)	1 (4%)	188 (9%)	7 (6%)	265 (17%)	15 (9%)
看護師	753 (15%)	136 (35%)	32 (94%)	45 (9%)	22 (85%)	134 (7%)	90 (80%)	146 (9%)	143 (86%)
社会福祉士	731 (15%)	104 (26%)	6 (18%)	80 (15%)	4 (15%)	277 (14%)	20 (18%)	216 (13%)	23 (14%)
その他	757 (15%)	73 (19%)	9 (26%)	61 (12%)	2 (8%)	328 (16%)	19 (17%)	238 (15%)	25 (15%)
未回答	20 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)	12 (1%)	0 (0%)	6 (0%)	1 (1%)

※その職種が一人でもいると回答した事業所の数と割合